

高井高木 剣道優秀賞

鹿 追 音 更

杖道で全十勝剣道連盟勢活躍



古武道の杖道（じょうどう）の第39回全日本大会（全日本剣道連盟主催、10月14日・広島市）2段の部で、全十勝剣道連盟杖道部会（鈴木清志部会長）所属の高井宏行（45）＝鹿追＝が剣路の秦葉奈子と、高木誠（38）＝音更＝は札幌の細沼哲也とペアを組んでそれぞれ全勝し、最高賞に相当する優秀賞を受賞した。2人とも2段の部の2連覇を果たした。

（北雅貴）

2段の部で最高賞の優秀賞を受賞した高井宏行と高木誠（右から）

ペアと息合わせ快勝 高井 気合で全試合3-0 高木

高井と高木は2008年から杖道を始めた。剣道経験者の高井は10年に初段の部、昨年は2段の部を制した。28組が参加した今回は初戦で「体が硬くて細かいミスがあった」と2-1と試合序盤は小差のスタートとなった。

高井は176センチ、秦は160センチと身長差があるが、大会の1カ月ほど前から毎週剣路に行き、息を合わせていた成果が徐々に始まった。「互いの間合いに気を付けた」2回戦以降は、すべて3-0と快勝した。

杖道は「動きは激しくないが、ぎりぎりで見切るために緊迫感がすごい。集中力が必要」と話す高井。今週末の昇段試験で3段取得を狙い、来年も稽古に精進する。

武道未経験者の高木は、細沼とペアを組んで4年目。2人での練習は年に数回だが成熟度は高まってきている。1回戦は内容を全く覚えていないほど緊張したという。2回戦以降は床が滑った初戦を踏まえて重心移動に注意を払った。4試合すべて3-0と完勝だった。高井は「技の決まりが甘くて気合だけで乗り切った感じが、ペアにも助けられた」と振り返った。

目標としている3段は、技術だけでなく体の姿勢や足の向きなども厳しく審査される。大会が目標ではないとしながらも、「出るからには上を狙う。この1年をしっかりと振り返り反省して、日々の鍛錬に励む」と意欲を見せる。

6時から同8時45分まで、帯広の森体育館で練習を行っている。杖道（じょうどう）は長さが128センチ、直径2.4センチの杖（つえ）を用いる2人一組の形武道。1人が太刀で攻撃し、もう1人が寸前でかわして、杖でみぞおちなど相手の急所を狙う。攻撃よりも変化に応じた防御で相手を制圧することがポイント。2組の出場者が審判（3人の前で6本の演技を行う。3本で役割を交代し、「充実した氣勢」「正しい姿勢」「正確な打突（だつとつ）」と打ち込みの強弱「礼法」などで旗判定する。1974年から始まった全日本大会では、初段から3段までは決勝を行わずに、準決勝で勝利した2組に優秀賞が与えられる。



杖道（じょうどう）
長さ128センチ、直径2.4センチの杖（つえ）を用いる2人一組の形武道。1人が太刀で攻撃し、もう1人が寸前でかわして、杖でみぞおちなど相手の急所を狙う。攻撃よりも変化に応じた防御で相手を制圧することがポイント。2組の出場者が審判（3人の前で6本の演技を行う。3本で役割を交代し、「充実した氣勢」「正しい姿勢」「正確な打突（だつとつ）」と打ち込みの強弱「礼法」などで旗判定する。1974年から始まった全日本大会では、初段から3段までは決勝を行わずに、準決勝で勝利した2組に優秀賞が与えられる。

小学生道東バレー

本別中央ジャンプ初V

男子・混合 大会へ 得点源・吉川がけん引

た」と廣田監督は選手たちをたたえる。今月下旬には、女子の部で全国大会出場が懸かった道大会（24、25日・芦別）を控えており、谷藤主将も万全の体調で参戦する。廣田監督は「選手たちは、練習で培った力を、本番で発揮してほしい」と激励している。

【女子】	1回戦
ワンピー	2 2121 1815 0 札内南
芽室小	2 2121 1414 0 女満別J
リムズ	2 2121 1717 0 更別J
釧路野	2 2121 1717 0 更別J
北見ワ	2 2121 1119 0 ストリュ

【男子】	1回戦
ワンピー	2 2121 1815 0 札内南
芽室小	2 2121 1414 0 女満別J
リムズ	2 2121 1717 0 更別J
釧路野	2 2121 1717 0 更別J
北見ワ	2 2121 1119 0 ストリュ

